

令和4年度 金沢市森づくり市民会議（第2回）

日 時：令和4年11月18日（金） 13時30分～15時00分

会 場：金沢市役所第2本庁舎2階 2201会議室

出席委員：石村委員、大河原委員、金森委員、河崎委員、澤田委員、
杉野委員、橘委員、増江委員、水越委員、森委員、柳井委員、
横山委員

欠席委員：鏑委員、西多委員、能木場委員（五十音順 敬称略）

事務局：山森農林水産局長、小杉森林再生課長 ほか7名

【次第】

1 開 会

2 挨拶

3 会長挨拶

4 議 題

（報告案件）

- ・森ミライ活動拠点の進捗状況について
- ・金沢市営造林の主伐について

5 閉 会

【議事録】

事務局より説明

森ミライ活動拠点の進捗状況について

（会長）

森ミライ活動拠点の進捗状況について意見はないか。

（委員）

コアづくりにおいては風景と一体となるような環境でつくるのが大事だと思う。風景と一体となるような環境にコアをすることで人々が集まりやすく、森に関する様々な活動がしやすくなるのではないか。

また、木の製品については単なる展示会をするだけでなく、若い人に対する情報発信や発表の場、販売先について検討をすることが必要だと思う。

(委員)

森ミライ活動推進部会では様々な意見がでた。今後は部会の委員の意見だけでなく、美大との連携や先進地の事例調査なども行い、金沢市と協力しながら方向性をまとめていきたいと思っている。

(委員)

美大のホリスティックデザインが入っていることは大変良いと思った。森に興味がある人を前提として「何をするか」を先に考えがちだが、森に興味のない人をどのようにして興味を持たせるかが重要であると思う。先進地の事例の調査だけでは不十分であるため、ホリスティックデザインと一緒に人々に森について興味を持たせるための見せ方など心理的な働きかけも一緒に検討してほしい。

(委員)

拠点となる場所はどのくらいの規模を考えているのか。

(事務局)

まだ具体的には決まっていない。今後部会の委員や美大との連携により検討していく。

(委員)

金沢産スギ材を使って良いものを作り、材の価値を上げていくだけでなく、魅力的な金沢の森づくりをどうしていくかも併せて検討していく必要がある。遊び場や学び場、仕事場などがバランスよくそろっている森に興味を持ってもらいやすく、魅力的なのではないかと思っている。他都市の事例も参考にしながら検討すると面白いのではないか。

(委員)

森に関する税金がどのように使われているか、市民がわからないのが現状である。場所づくりをすることで税金の使い道はわかりやすくなるかもしれないが、場所づくり以外にも市民に森についてわかりやすく伝える方法が他にもあるのではないか。場所づくり以外にも人材育成が必要だと思っている。

(委員)

街中を見てみるとマンションやビルなど高い建物が多く、緑が少ない。駅前などにももっと緑を増やして木の文化都市金沢を推進して行ってほしい。東京などの都会でも工夫をして緑を増やしているので参考にしてほしい。

(委員)

森ミライ活動は森林資源を活用するために森との関り方や有効に森林環境譲与税を活用するために何をするかを検討する場ということなのか。また、金沢市は森づくりについてどのように考えているのか。

(事務局)

森林環境譲与税の活用検討会が令和元年度から令和3年度までであった。地域の実情に応じて用途を定めることができる税金であり、金沢の森林をどのように活用し、市民に森の魅力を伝えていくのか、今までの考え方をさらにアップデートさせた取り組みをしてこうという提言があった。その中の一つの取り組みとして今年度は森づくりを円滑に進めていくために森ミライ活動のコアづくりについて検討を行っていくということを前回の市民会議で承認を得た。

森づくりとは、森を「育て」「親しみ」、森の恵みを「活かす」取り組みで植樹だけでなく、木材や自然を大切にすることを大切にする心を持つことなど様々な観点から考えることができると思っている。

(委員)

森を活用する取り組みとしては、約8割が木材を使った取り組みで、残り2割が森を愛でる活動に対する取り組みであると思っている。

森を愛でる活動をする中で、景観はとても大切である。石川県や街中に特有の森の景観というものを大切にしながら森づくりを進めていかないと森での活動時に困るのではないかと思う。景観を崩さないように森づくりをしていただきたい。

(委員)

海外では森林セラピーが取り入れられており、将来的には日本の医療にも取り組まれるかもしれないので参考にしてほしい。

(委員長)

事務局の方でもまだ方針が決まっておらず、報告できない部分もあると思うが、今後部会での議論や美大との連携を進めることで方針を固め、市民会議の委員に報告をしていただきたい。

(委員)

部会での議論を進めていくためにはいろいろな人を取り入れて議論をしていく必要があると思う。また部会の委員のメンバーについても検討していただきたい。

事務局より説明

金沢市営造林の主伐について

(委員長)

市営造林の主伐について何か意見や質問はないか。

(委員)

森林のレーザーで作成した微地形図は市民にも公開するのか。またクマの情報も併せて掲載した状態で公開してもらえないのか。

(事務局)

今後、作成した微地形図をどう活用していくか検討していく。

(委員)

ただ微地形図を見ても市民が理解するのは難しいので、森での活動をしたいと市民が相談した際に、微地形図をもとに市がアドバイスをすると助かる。

今はキャンプが流行っており、クマ出没情報も市民は知りたがっているので検討してほしい。

(委員)

環境林もしくは経済林かのすみわけをするとのことだが、市営造林の団地ごとすみわけをする予定なのか。

(事務局)

市営造林一団地の中でも尾根部や谷部があり、ご提案のとおり団地ごとに再造林可否を決定するのは難しいかと思うが、契約自体は土地まとめでの契約となっているため、団地ごとに説明してほうが良いと思われる。どのように進めていくかについては現在検討中である。同じ市営造林の中でもすみわけをする必要もあると思っている。

(委員)

主伐について持続可能な木材生産をするためにはどのくらいの量を伐採する必要があるのか。

(事務局)

どのくらいの量を伐採するつもりかも含めて現在検討中である。

厳密にはまだ市内全域のレーザー計測を行っていないため、GIS上の現在の目安として今回は報告をした。来年度データを解析していきながら、主伐や先ほどの質問にあった市営造林の団地の中のすみわけについても検討を行っていきたい。

(委員)

富山県の事例が掲載されていたが、富山県の例に沿って行っていく予定か。

(事務局)

今までは間伐後の丸太売りをしてきた。石川県でも同様の取り組みを始めており、県での実績や様々な都市の事例を参考にしながら検討していきたい。

(委員)

現在は間伐が主流となっているが、間伐できるところは一通りやり終わったと思っている。市営造林を見ていると、まさに今が主伐をして木材を売るのに適した材が育っていると感じた。大径木にした方が価値が上がると思っている人が多いが、県内には大径木を加工する工場もなくなってきているし、用途も減ってきているため、主伐できるところから始めるのが良いと思う。再造林については地権者とも相談しながら木の循環を進めていってほしい。

何もせずに森を放置したままだと生態系にも影響を及ぼすと思うので、伐れるところは伐って、残すところは残すことが大切だと思った。

(委員)

市内全域森をゾーニングするほどのくらいの期間がかかるのか。環境林と経済林の割合はだいたいどの程度なのか。

(事務局)

レーザーで計測・解析するだけなら、半年程度で可能。

その結果を踏まえ様々な要素を導入したうえで、ゾーニングとして表示するのはもう少し時間がかかる。環境林と経済林の割合は市営造林の中だけでみるとおよそ半分ずつとなっている。

(委員)

ゾーニングをする際は生態系を壊すことのないように、なるべく環境林を大きく見て選定した方が良いと思う。

(委員長)

レーザーデータは様々なところで使われている。使用目的をはっきりさせたうえでオープンデータとして公開するのが望ましいと思う。長野県や富山県ですでに公開しているため参考にしていきたい。

(委員)

主伐し木材を加工したあとの端材の用途についてもエネルギーに変えるなど併せて検討をするべきだと思う。

(委員)

石川県の県行造林では主伐が行われており、地権者への還元もあるので是非参考にしながら金沢市でも主伐を行ってほしい。

また、市民一人当たりの森林面積はどのくらいか具体的に数字で表すことで、森に関心を持ってもらいやすくなるのではないかと思った。